

ふりがな	ひがしたわらぞうがやといせき	
遺跡名	東田原象ヶ谷戸遺跡 (秦野市No.24遺跡)	
調査期間	20130301～継続中	
所在地	秦野市東田原	
時代	縄文 弥生 奈良・平安 近世	

更新日:平成25年9月1日

調査原因	中日本高速道路株式会社による新東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置	小田急小田原線秦野駅から北方約5kmに位置する。
主な調査成果	<p>本調査は、新東名高速道路建設に伴い、平成25年3月1日から実施しました。遺跡は、金目川右岸の東へややせり出した舌状台地に位置し、標高200mを超えています。調査区は近世以降の段切りによって大きく上下2段に区分されます。下段の①②④区の調査では、縄文時代早期と考えられる集石遺構5基が発見されました。今年度は上段③区を中心に調査を実施し、弥生時代の陥穴状土坑(おとしあなじょうごう)(写真左)2基、平安時代の耕作跡(写真右)等が発見されました。弥生時代の陥穴状土坑は、遺構の確認面からおよそ2.3mもの深さがありました。そのうちY2号土坑では、土坑の底からおよそ30cmの覆土中から、小動物の骨が発見されました。おそらく土坑が埋まり始めてそれほど経たないうちに、土坑内に落ちたものと思われます。</p>



▲ ③区 Y2号土坑(弥生時代)



▲ ③区 平安時代の耕作跡と円形土坑全景